

東海道五十三次神奈川エリアを歩く

旧東海道神奈川エリアのウォーキングに、男性三人女性一人(平均年齢 82 歳)の 4 人グループで出掛けた。リーダーは 87 歳ながら健脚で五街道の全路を制覇した方、街道ウォーキングの詳細な計画を作ってくれたので、そのスケジュールで行動した。川崎から箱根の約 92km を 10 日間全歩行 105 km を掛け、広重の浮世絵を偲びつつ旧東海道を踏みしめた。



長谷川 武

「東海道（江戸幕府制定ルート）散策の概略距離と時間・歩数

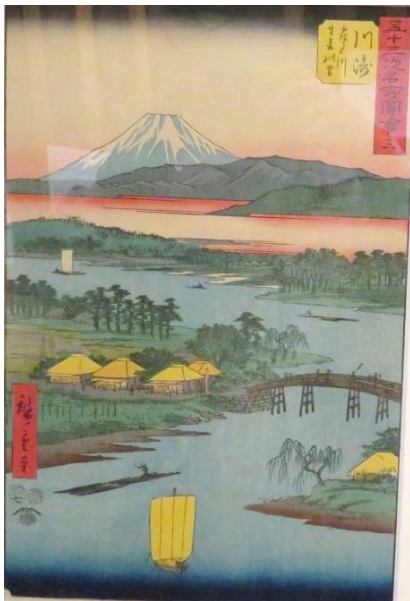
1日目	1月13日（木）	川崎宿	～ 神奈川宿	12.0 km	約4.0時間	26,503歩
2日目	1月27日（木）	神奈川宿	～ 保土ヶ谷宿	7.5 km	約3.0時間	19,113歩
3日目	2月11日（金）	保土ヶ谷宿	～ 戸塚宿	8.4 km	約3.0時間	19,565歩
4日目	2月24日（木）	戸塚宿	～ 藤沢宿	10.9 km	約4.0時間	26,610歩
5日目	3月10日（木）	藤沢宿	～ 茅ヶ崎	9.0 km	約3.2時間	21,105歩
6日目	3月24日（木）	茅ヶ崎	～ 大磯宿	12.0 km	約4.0時間	26,461歩
7日目	4月14日（木）	大磯宿	～ 国府津	11.2 km	約4.2時間	26,830歩
8日目	3月31日（木）	国府津	～ 小田原宿	12.3 km	約4.2時間	27,022歩
9日目	4月28日（木）	小田原宿	～ 湯本	8.8 km	約3.2時間	20,804歩
10日目	5月12日（木）	箱根宿	～ 湯本	12.5 km	約4.3時間	27,252歩

藤沢宿を訪ねた折に「藤沢浮世絵会館」の情報を得たので立ち寄ると、藤沢浮世絵会館では、「広重の豎絵東海道勢ぞろい 12Days の京旅行」イベント企画の展示中でした。

歌川広重は 20 種余りの東海道シリーズの浮世絵を描いているのですが、「五十三次名所図会」（通称：豎絵東海道）は晩年に描かれた作品でした。東海道の様々な宿場やその周辺を俯瞰的な縦の構図で描かれており、当時の旅景色を日本橋から三条大橋までの全 55 点を、浮世絵で旧東海道をバーチャルリアリティーに鑑賞させて頂きました。この観賞はグットタイミングであった。

江戸日本橋より京の三条大橋を結ぶ東海道は約 126 里 6 町 1 間（約 492 km）あり、その道中には 53 の宿場がありました。その周辺の景色を、広重の「豎絵東海道」は縦の構図で遠近感のある図や俯瞰図で構成されており、雄大な旅景色を遠くから眺めているかのように描かれています。

広重の絵で当時の風景がイメージできたので、その浮世絵を話題にしながら現地を歩きました。



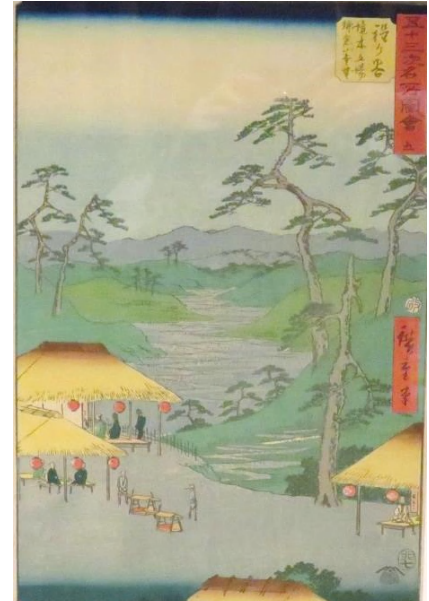
川崎

川崎 鶴見川生麦の里
川崎と神奈川宿の途中



神奈川

台の茶屋海上見はらし
台の茶屋から海・野毛・本牧を望む



保土ヶ谷

境木立場鎌倉山遠望
鎌倉山を望む、牡丹餅が名物



戸塚

山道より不二眺望

谷戸田と丘陵の農業地で働く人



藤沢

南期の松原あり不二

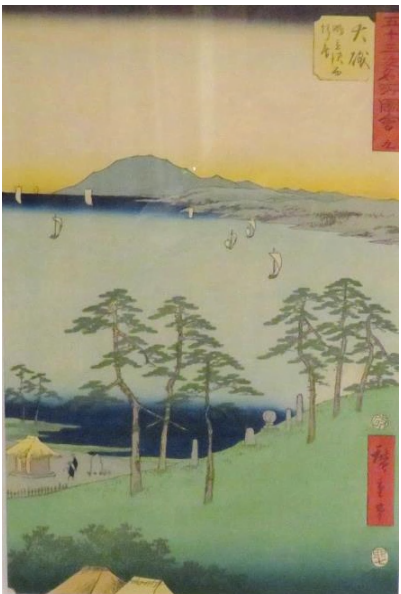
松並木を様々な手段で街道を行く様子



平塚

馬入川舟渡し大山遠望

大山と富士及び川の大きさを表現



大磯

嶋立沢西行庵

景勝地として知られていた相模湾の景色



小田原

海岸漁舎

伊豆半島が見える。ういろうと提灯が名物



箱根

山中夜行の図

松明を灯して駕籠が薄暗い箱根山を登る

お陰様で、特に五十三次名所図会の三～十一の川崎宿～箱根宿までの神奈川エリア、九宿場関連 9 点の作品を撮影収集させて頂いたので、ラッキーでした。また、天候などの諸条件に恵まれながら旧東海道ウォーキングを、江戸時代に戻った雰囲気を楽しめたのは良き思い出となった。

五十三次名所図会は、歌川広重の安政 2 年 (1855 年) の作品で、大判錦絵です。

当時の東海道の旅は、日本橋から京の三条大橋まではおよそ 12 日間を要したとされています。東海道は慶長六年 (1601)、徳川家康が宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めたとされており、道の整備や伊勢参りの大流行などにより、多くの人が旅する街道であり、様々な浮世絵に描かれたようです。その絵のイメージは、各所の名所や杉並木・石畳み等に残っていたので堪能できた。

高齢者の身を案じながら日数を掛けてテクテクのんびり、予定通り何とか制覇することが出来た。